

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム V2.7.0 (2016) | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知県富山町向住宅 B棟	階数	地上8F
建設地	名古屋市守山区天子田三丁目1001番の一部	構造	RC造
用途地域	準防火地域、31m高度地区、緑化地域、居住誘導区域内	平均居住人員	124人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年11月 予定	評価の実施日	2023年12月5日
敷地面積	2,202 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	695 m <sup>2</sup>	確認日	2023年12月5日
延床面積	3,270 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%

②建築物の取組み: 69%

③上記+②以外のオンサイト手法: 69%

④上記+オフサイト手法: 69%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

#### Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

#### LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
既存住棟(5階建)の代替え事業である本計画は、中層化(8階建)することで敷地内平面駐車場、児童遊園を広く確保し、地域のコミュニティを促進します。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・室内化学物質調査では規定値をクリアされている。 ・F☆☆☆☆以上を全面的に使用し、室内化学物質調査をしている。	・建築基準法上の耐震性をクリアしている。 ・住宅性能表示基準劣化対策等級3をクリアしている	・敷地内緑地を条例基準以上確保している。 ・地域を考慮した外観デザインを採用している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・住宅性能表示基準断熱等性能等級5をクリアしている。 ・南側バルコニーとしている。	・大便器を節水型ロータンクとしている。 ・基礎部分に高炉セメントを使用している。 ・有害物質を含まない材料を使用している。	・分別可能な特定ゴミ置き場を設置している。 ・適切な量の自転車置場、駐車スペースを設けている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

愛知県営大森向住宅 B棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>4.2</b>
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.9</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.3</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



#### 2. 自然共生

評価点 = 2.9



#### 3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。